

2007年(平成19) 6月

カルメル

霊性センターニュース



荒れ野で叫ぶ声がする

222号

キリストと魂との歌

(牧童)

十字架の聖ヨハネ

一人ぼっちで 牧童の 心は痛む
歓びとも みち足りた心とも 縁なく
羊飼いの少女を想い
愛に 胸を 痛めぬいて

愛で 傷手を負ったことを 泣きはしない
こうして 悲嘆に沈んでいることにも 心痛めはしない
心は 傷ついても
ただ 忘れられている との思いに 彼は泣いている

美しい羊飼いの少女に 忘れられているとの思いがあればこそ
異郷で 深い痛みを心に
手荒く虐げられるに委せている
愛に 胸を 痛めぬいて

牧童は云う 「ああ 可哀そうに
私と共に在ることを 楽しもうとせず
私の愛から 遠ざかった ひと」
彼女への愛に 胸を 痛めぬいて！

^{みよのり}
長い道程のはてに 彼は木の上へのぼり
その美しい腕を 開いて
木にかけられたまま 死んでいた
愛に 胸を 痛めぬいて

心の泉



泉の心



DE IMITATIONE CHRISTI キリストに倣いて

第一章 キリストに倣って、世のはかないものを軽んじる

1 キリストとの一致

「私に従う人は闇のなかを歩かない」(ヨハネ 8.12) と主は言われる。これはキリストのみことばである。もし私たちがまことの光に照らされ、心の暗やみを抜け出したいなら、その生涯とおこないにならなければならない。したがって、私たちの第一の務めは、イエスキリストの生活を黙想することにある。

2 キリストの精神

キリストの教えは、聖人たちのすべての教えにまさる。その教えの精神をぐみ取ることができる者は、そこに「隠れたマナ」(黙示録 2・17) を見いだすであろう。ところが、多くの人々は、しばしば福音のみことばを聞いていても、それほど心に響かない。それは、キリストの精神から遠ざかっているからである。キリストのみことばを十分理解して、それを味わおうとする人は、自分の全生涯を、キリストに一致させるように努めなければならない。

日本人の思考は、神はあるか、という問いを肯定的にうけとめながら、神は何であるか、という問いをその中に解消してしまうところがある。

“何ごとの おわしますかは 知らねども…”

“何もの”より“何ごと”なのである。

それがさらに日本的思考の特色を現わす。

こうした中では、“涙こぼるる”現実が大切である。すなわち 神秘の感覚のめざめということである。

神はあるか ないか、でもなく、神は何であるか、という知性のめざめではさらになく、回心せよ、と かくれた罪意識に醜恥心をめざめさすことでもなく、いかに生きるべきか、という実践倫理のたえまない修正を可能にする実践知性でもなく、あるがままの現実をあるがままにうけとめて、それを凝視することを学ぶべきである。

よきもあしきも、罪も、徳も、そこに実存の意味を探り、神と愛とのめざめを呼びおこすべきである。

日本人の思考にこの切口が与えられない限り、いつまでも不毛のままでとどまらなくてはならないであろう。

ヘンリ・ナーウエンの

『旅路の糧』

(100)



一致の秘跡

エウカリスティアは、一致の秘跡です。それは、私たちを一つの体にしてくれるのです。使徒パウロは、こう書いています。「パンは一つだから、私たちは大勢でも一つの体です。皆が一つのパンを分けて食べるからです」(1コリ 10 : 17)。

エウカリスティアは、キリストにおける私たちの一致を祝う場といった以上のものです。エウカリスティアこそ、この一致を創り出すものだからです。同じパンから食べ、同じ杯から飲むことによって、私たちはこの世に現存するキリストの体となります。キリストがパンをさくことによって、私たちにはほんとうに現存する者となるように、私たちもキリストの兄弟姉妹、同じ体の肢体として、互いにほんとうに現存する者となるのです。このようにして、エウカリスティアは、単に一致を意味するばかりでなく、一致を創り出すのです。

(1008)

境界線を打ち破ること

エウカリスティアの秘跡は、私たちの中に、また私たちの内に、キリストが現存する秘跡として、年齢や皮膚の色や民族や性や感情的な状態や経済的地位や社会的出自などを度外視し、私たちを一つの体にする特別な力を持っています。エウカリスティアは、これらすべての境界線を打ち破り、一致と共同体の生き生きとしたしるしとして、この世に生きているキリストの一つの体を創造するのです。

イエスは熱心に御父に祈っています。「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります」(ヨハ 17 : 21)。エウカリスティアは、すべての人々の間で生き抜かれるこの神的な一致の秘跡なのです。

(1010)

『必要なことは、ただ一つだけ』(25)

ルドルフ・V・デ・スーザ OCD (カルメル会)

6. 落ち着くために時間を取ること

坐って、本を読んだり、空想したり、居眠りしたりするのに快適な場所を選んでください。あなたの好きの音楽を聞いてください。のんびりと働いてください。ジグソーパズルを組み立てるように、何か違うことをしてください。

ストレスは、時々あなたを、限界までのばされたかたい輪ゴムのように感じさせます。そういう状態になったら、リラックスさせるために二三度、深呼吸をしてください。あなたが解決不可能の問題の只中にいるならば、休憩してください。せわしい一日、あるいは一週間の後（時にはその間）、リラックスする時間を見出すことによって、すべてがまったく変わってきます。

7. ちょっとした睡眠を取ること

疲れはストレスの最良の友です。十分睡眠を取らないと、疲れを感じ、気難しくなるかもしれません。あるいははっきり考えられなくなるかもしれません。いずれにせよ、物事を処理してゆくことが難しくなるのです。疲れているならば、問題は実際以上にずっと大きく見えるかもしれません。いつもはやさしく思われる学校の宿題を終わらずのに苦勞するかもしれませんし、スポーツや身体的活動をする準備ができておらず、あなたは友だちと本当に馬鹿げたことについて口論するかもしれません。

睡眠は大切なことです。適正な睡眠時間を取ることは、すべての年代の人にとって特に重要です。なぜならあなたの身体（そして心）は、絶えず変化し発展しているからで、翌日のためにエネルギーをたくわえるために、もっと睡眠を要求しているからです。ですから、睡眠をけずってはいけません。

8. 日記をつけること

すべてがうまくいかないおかしくなるような日があるならば、日記にそのことを、つまり、あなたがどのように感じているのか、あなたの人生において何が進行しているのか、あなたが達成したいと事柄は何なのかといったことを、胸から重荷をおろすために書き記すことはよい考えです。ストレスのある状況に直面した時、何を

していたかを記し、それから振り返り、その後どのように対処したかを考えてください。そう、静かな場所を見つけ、ノートとペンを手に取って、書き始めてください。日記を書き続けること。早朝に二三の点をメモすることは、多くの時間を節約することになります。より重要なことは、そうすることによって、すべきことを忘れないよう守られるのです。そうしないと、人生においてやるべき重要なことを延期し、結局やりそびれてしまうことでしょう。書くことは、精神的な能力をみがく有力な手段です。思考と行動を組織的に行なうことを学ぶために、あなたの考えや体験や洞察を日記につけることは、明晰さ、精確さ、首尾一貫性を増すのです。

9. 組織的に行なうこと

することがあり過ぎて、時間が十分ないのでしょくか。仕事に埋没しているのですか。宿題を忘れてしまいましたか。戸惑い、不愉快な心の状態ですか。学校や練習や研究や仕事や他の活動のために十分準備ができていないと、その日はとてもストレスがたまります。

すべてがなされるということは、一つのチャレンジです。けれどもしなければならぬすべてのことが、少し計画的に組織的に行なわれるべきです。私たちはしばしば、人生の優先事項に関して混乱します。何が重要であるかを知らずに、仕事をし続けます。ところがその仕事は、その時、もっとも緊急な仕事ではないのです。時々、私たちは最重要課題に注意を向けることなく、時間だけがむなしく過ぎて行くことを体験します。これこそが、私たちに欠けている点です。すなわち、私たちが時間を使う場合、組織的に行なうということです。私たちの心の中が組織化されていない場合、組織化された生活をするのは難しくなります。私たちは、或る種の仕事を、その重要さを適切に理解することなく、し続けます。そしてそれらのまだなされていない重要な仕事の記憶が私たちに繰り返し立ち現れ、私たちの内に緊張と心配を生み出します。それゆえ、生活の中ですべてを組織化してゆくことは、とても重要なのです。

10. 手を貸すこと

他者を助ける活動の中に巻き込まれること。あなたがだれかを助けている時、ストレスを意識することはほとんどないでしょう。それはまた、自分自身を、それまで決して知らなかった特別な能力を、発見するすばらしい手段でもあります。

(続)

くのり 彰訳

三位一体の主日

「真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」

(ヨハネ16:12~15)

今日は最も神聖な三位一体の祭日です。三位一体は長い間、幾世代にもわたって隠されてきた神秘ですがキリストによって明らかにされました。神聖なペルソナの関係がはっきりしているのは神の内部においてです。その上その働きは非常に活発で、核分裂による爆発エネルギーよりもっと激しく大きな力です。けれどもその三つのペルソナはまた一つでもあります。ペルソナ同士は愛と交わりの強い緊密さで結ばれており、それはこの地上で知る限りの最も愛に満ちた共同体にも見られないものです。御父は永遠から御子を生み、聖霊は永遠から御子を通して御父から発出しています。

今日のヨハネ福音書の部分は最後の晩餐のときに御父に祈りながらご自身のことを“子”と言い、聖霊を約束なさったイエスを示します。このときイエスは聖霊を強調なさいます。聖霊は人類の中にイエスが絶え間なく現存しておられることを顕し、使徒たちを支え、イエスのメッセージを明らかにし、イエスによって示された神の啓示のより深い理解を促します。聖霊はパラクレイトス即ち弁護者であり、調停者であり、慰め主ですがここでは永続的に指導する聖霊の役割をイエスは強調なさいます。ヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語の“霊”という言葉は共通して“息”、“いのち”を意味します。今日の福音の最後の二節は三位一体の中での真の愛の交わりを深く理解させます。

私たちキリスト者の生活の全ては三位一体の営みに巻き込まれています。典礼において私たちはイエスを通して、聖霊と一致して御父に祈ります。また三位一体を見習うようにと教えられています。それは私たちがより深く神のいのちに入ってゆくことを意味します。神の内にある三つのペルソナが非常に活動的で独立していながら同時に一つであるように、私たちも人々との交わりにおいて同様にすべきです。神は私たちを、三つのペルソナの活発な愛の交わりに与らせるよう呼んでおられます。日常生活の中で私たちの信仰を生きるべきです。そうすれば私たちの心の寛大さと愛の一致は他の人々を三位一体の神への深い信仰に導くでしょう。「栄光は父と子と聖霊にありますように。」

(Sr. Paulina)

キリストの聖体の祭日

「イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた」(ルカ 9, 11b-17)。

パンの増加の奇跡は、四つの福音書すべてに平行箇所を持っています。しかし、ナインのやもめの息子、会堂長ヤイロの娘やラザロを蘇えらせた奇跡などは、そうとは言えません。この事実は、この飢えた人たちにパンを食べさせた奇跡が、死者の蘇えりのような衝撃的な奇跡以上に、信仰の生活にとって見過ごすことのできない重要な意義をもっていると言っているのではないか。それほど意義とは、イエスとのわたしたちの生きた交わりに密接に関連するもの以外には考えられないのですが。

このパンの増加の奇跡は、「イエスは、何者か」(参考ルカ 9, 9; 20) との問いに、また、イエスの生涯の頂点、イエスが何者であるかがはっきりする受難の前夜、最後の晩餐の席でのイエスご自身の言動と深く関連しています。「パンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。『これは、あなた方のために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのようにおこないなさい』」(ルカ 22, 18)。今日の福音においても、本当に、イエスが弟子たちに配らせたものは、パンでも、魚でもありません、ご自分自身なのです。イエスのお考えははっきりとしています。ご自分とのいのちの交流が、すべての人のなくてはならない糧、パンなのです。しかし、もう一つ、はっきりとしていることがあります。それは、このようないのちの糧は、書物や抽象的な理論や思想を通してではない、むしろ、物質的なパンで象徴される具体的なからだ、十字架の死の苦しみを過ぎ越して復活に入られた栄光化されたからだに生きておられるイエスとの出会いを通してなのです。しかも、このイエスのからだに触れることは、大変卑近なパンを食べる行為を通してなのです。

復活の日の夕方、エマオに旅する二人の弟子たちに、「イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると二人の目が開け、イエスだと分かった」(ルカ 24, 30-31)。十字架の上に死に、復活し栄光の内に生きているイエスは、「パンを裂く式」、「聖体の秘跡」の内に、地上の旅を続けるわたしたちの目を開き、わたしたちを命の交流に招き、共に歩いてくだっているのです。

(ルカ 渡辺幹夫)

年間第11主日（C）

「あなたの罪はゆるされています」

（ルカ7：36～8：3）

ジョン・ミルトンは次ぎのようにいっています、「痛悔は永遠の宮殿を開く金の鍵です」。痛悔は、罰を恐れるために罪をきらうというのではありません。それは、自分の罪深さに対するいちばん深い正直な気持ちです。

ルカ福音書の本日の部分は、世界で最も感動的で、無限にあわれみ深い物語のひとつです。イエスが罪深い女をゆるす物語です。わたしたちは、有限な創造物として罪を犯しますが、神は無限の創造者としてゆるしてくださいます。

イエスがシモンの家にいたとき、罪人として知られている一人の女がイエスに崇敬の行為で痛悔の気持ちを示しました。彼女は、他のユダヤの女性と同じように、首に高価な香油の入った小びんをつけていました。彼女はイエスの足に香油を塗るつもりでした。イエスの足もとに身をかがめたとき、彼女は感極まって急に激しく涙を流しました。このようなことになるとは彼女は考えてもいませんでした。イエスの足に香油を塗る前に、彼女は無意識に髪の毛をほどこいて繰り返しイエスの足をふき、せつぶんしました。

このことから、その家の主人のシモンは、この女がどういう女であるかをイエスが見抜くことができないのであるから（39節）、イエスは預言者の筈はないと心の中でとがめました。イエスは、シモンの密かな考えを見抜くことで預言者であることを示しました。この罪深い女が触れたことでイエスは汚れたものになったと、シモンは考えたのでした。罪を犯した人がゆるしを求めるとき、イエスにとってこのような汚れは問題ではありません。それで、イエスは彼女に「あなたの罪はゆるされている」といわれたのです（ルカ7：48）。

この女とシモンとの対比を通して、彼女の方がこのファリサイ派の人より優れているとイエスはわたしたちに知らせてくださっています。彼女は痛悔の気持ちから出てくる愛をあらわします。ところがシモンは、自尊心の高さから自分が罪深いということ認めることができませんでした。罪深い女の自分を与えつくす態度は、信心深いシモンの故意の自制心と対照的です。彼らの間の大きな対比は、シモンは自分が不足していることに気づかなかったため愛を感じることがなく、そのためにゆるしを受けることができませんでした。一方女は、自分が不足しているということ以外何も意識していなかったため、自分を理解してくれる人に対して特に愛に満ち溢れ、そしてゆるされたのです。神に対してわたしたちが門戸をとぎすひとつのことはうぬぼれです。不足の感覚が愛である神に対してわたしたちの心を開きます。

（Sr. Paulina）

洗礼者ヨハネの誕生の祭日

「その子の名はヨハネ」(ルカ 1, 57-66・80)

今日、典礼は、イエスの先駆者、洗礼者ヨハネの誕生を祝います。この記念に、年間の主日の典礼に優先されるほどの重要性を教会は見ているのです。その重要な意義とは何でしょうか。それは、「この子には主の力が及んでいた」と言われる主の力の不思議さ、ヨハネ、「ヤー・カーナーン」、「主は低い者に恵みを施される」との名前が示す神の低きに降る愛、旧約の歴史を通じて流れている小さい者への慈しみ(参照申命記 7, 7)、そして、「その独り子をお与えになったほどの愛」(ヨハネ 3, 16)に結晶する神の慈愛の不思議さではないでしょうか。洗礼者ヨハネは、その生と死において、神の低きに降る愛の受肉・マリアの御子イエスの生と死の秘儀を指し示していたのです。

救い主イエスと洗礼者ヨハネは、誕生と幼年期の描写で、並行するように福音書には記述されています。たとえば、どちらも、天使によってその不思議な懐胎が告げられ、その誕生はまわりの人たちに「喜び」をもたらします(ルカ 1, 58; 2, 210)。「幼児は身も心も健やかに育ち、イスラエルの人々の前に現れるまで荒れ野にいた」(ルカ 1, 80)とヨハネについては書かれ、イエスには、「幼児はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた」(ルカ 2, 40. 参照ルカ 2, 52)と言われます。その一方で、イエスは、洗礼者ヨハネを遥かに凌駕する方、むしろ、ヨハネに注がれる神の恵みの源泉である方として描写されています。この意味では、イエスの先駆者ヨハネは、イエスの後に来る者、従う者、すべてに先行し無償で与える愛の受肉、イエスの後続者となるのではないのでしょうか。ヨハネは、誕生においても死においても、イエスに結実する永遠からの神の救いの計画に信従し切ったからこそ、イエスの先駆者であったと言えるのです。

さて、わたしたちも、小さい者、罪人ですが、イエスの愛に選ばれ、生かされ、信従する者の道を歩み出させていただいています。この恵みに忠実であることで、わたしたちの生も死も、多くの人々にイエスを証しする指、「喜び」をもたらすもの、ある意味でイエスの先駆者となるように招かれているのです、洗礼者ヨハネと共に。

(ルカ渡辺幹夫)

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

17. 聖エンリコ・デ・オッソ (1840-1896)

エンリコ・デ・オッソ・イ・セルベッコは、スペイン、ヴィネブレの善良なカトリック一家に生まれた。彼の夢は教師になることであった。13歳の時に母を亡くし、アビラの聖テレジアのように聖母を自分の母とした。このとき、彼は俗世を去って隠遁者になる決意をした。モンセラートまで徒歩巡礼し、そこでイエスに生涯を捧げることを誓った。

エンリコは、この誓いを果たすためには勉学が必要であることに気付き、トルトサの神学校に入学した。彼の熱意と徳は、人に知られずにいることはなく、司祭に叙階されるとすぐに神学校の教授に任命され、1866年から1867年まで教授として奉仕した。彼は非常に愛されていたが、彼の望みはできるかぎり多くのスペインの人々を回心させるために出て行くことであった。

この目的を達成するために彼はペンを用いた。ジャーナリストとして、『聖テレジア誌』を創刊した。さらに、カトリック・アクション同志会も創めた。創めたときには、300人の若い女性が参加し、この運動は大きな成功を収め、急速に普及していった。このためこの会は、大信心会に格上げされた。

彼はアビラの聖テレジアに大きな信心をもっており、イエスの聖テレジア会という修道女会を創立した。彼女たちは、教育者としてスペイン、ポルトガル、アフリカ、アメリカで学校を改革した。

聖エンリコは、数多くの祈り、詩、ノヴェナ、連祷を書き残しており、その多くは神の母に向けられたものである。まだ翻訳されていないため、ここで紹介できる彼の祈りの限られたものである。

1896年1月に亡くなる前、エンリコは愛していたモンセラートに葬られるかどうかと尋ね、自分のいる修道院に葬られることになることと告げられた。彼は、もし、モンセラートに葬られないのなら、自分をフランシスコ会の修道院に葬ってくれても良いと言った!

教育者、改革者であったこの聖なる人が卓越した人物であったことは、瞬く間に認められるようになり、1979年に列福、1993年に列聖された。



聖エンリコ・デ・オッソ

—— 祈り ——

聖テレジアに

愛する聖テレジア、美しく、力強く、優しく、人の心を魅了するあなたは、祝福されま
すように。あなたの百年祭の実りが、過ぎ去っていくことない栄光となりますように。
あなたの与える影響がこの世で尽きることがありませんように。鼓動する心臓と理解す
る知性のあるところではどこでも、また、あなたの偉大さを賞賛する人、あなたの栄光
を愛する人、あなたの雄々しさを祝し、あなたの徳に倣う人がいますように。

モンセラートにて

私は、自分の召命を見出しました。あなたは私をお導きになりました。海の星、明の星、
バルセロナの星であるあなたが、どのように私の目のうちに輝いたかを思い起こすこと
もせず。私はあなたの光に従ってきました。あなたが、あなたの胎内の祝福された実
であるイエスを私にお見せになったとき、私は言いました。「私は、どんな時もイエス
のものとなります。イエスの司祭、イエスの使徒、平和と愛を伝えるイエスの宣教者と
なります」と。

おお、私のイエス、私のすべてよ！ あなたはすべてをご存じです。あなたは、私があ
なたを愛していることをご存じです！ おお、私のイエス、私のすべてよ！ あなたの
御名を私の知性、記憶、唇、そして特に私の心の中に、刻んでください。私があなたを
より良く思い起こし、あなたについてより多く語り、あなたをより一層愛するために。
おお、私のイエス、私のすべてよ！ 愛すること、そうでなければ、死ぬことを！ 私
のイエスよ、私があなたを愛することなく、そしてあなたを人々に知らせ、愛させるこ
となく、この世を去ることのないようにしてください。

主よ、お語りください。しもべは聴いております。主よ、私は人々にも預言者にも語り
ません。ただ、私の神であるあなたにのみ、私は語ります。主よ、あなたは永遠の命の
ことばを持っておられます。私の心、私の魂、私の力と五感に、そのおことばをお語り
ください。

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列17:3-4)」ということばに由来しています。

(東京カルメル会訳・編)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話(4)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

悪魔のロベルト(1)

聖人がアヴィラのエンカルナシオン修道院の修道女の聴罪司祭であった時(1572~1577)のことです。その町にとってもおてんばな若い女性が住んでいました。何で測ったらよいか分からない地震のようでした。若くて容姿のよい彼女は、当時は現在よりずっと小さく静かな町を騒がせました。町の人々は彼女のおてんばをほめていたのですが、さらに彼女はとても上手に歌を歌いました。そこで人々は彼女を「天のサカブーチェ(訳注:中世のトロンボーンの種類)」と呼びました。このサカブーチェについては、ありがたいことに、十字架の聖ヨハネの同時代人であるセバスティアン・デ・コバルピアスが説明してくれています。

「サカブーチェとは、伸ばしたり縮めたりする金属の楽器である。チリミア(訳注:クラリネットに似た楽器)やコルネットやフルートなど、他の楽器のように用いられる。ここから、まだものをわきまえていない人は、伸ばした時のサカブーチェのようだと言われた」。

「天のサカブーチェ」というあだ名のほかに、人々はその女性を「悪魔のロベルト」とも呼んでいました。たくさんのいたずら、そのいくつかは大変なもので、悪魔ですら起こさなかったようなものだったからです。

ところで、このロベルト(男性名だが女性)は、アヴィラでしょっちゅう、十字架のヨハネと呼ばれているとても聖なる修道士のうわさを聞きました。彼はテレジア修母とエンカルナシオン修道院の修道女たちやその他多くの人々の聴罪司祭だということでした。こうしてロベルトにも、このヨハネ修道司祭に告解したいという望みがわきあがりました。

しかしその町ではまったく物怖じしなかった彼女が、恐れにとりつかれます。それは当然でしょう。彼は、「十字架の」という名がついているのに対し、彼女は「悪魔」と呼ばれているのですから。悪魔はいつも十字架を恐れるものです。

けれどもついに、悪魔でありながらも勇敢できっぱりとしていた彼女は、恐れを断ち切り、友だちに納得させられて、ヨハネ修士の告解室に近づきました。彼女は自分の恐れを彼に説明し、罪を告白しました。(続)

5月節句の鯉のぼり

寒い冬が去って5月ともなりますと、あちこちで鯉のぼりの鯉が、風に泳いでいる景色を見かけます。そこで今回は鯉をめぐる逸話について多少みてみたいと思いました。先ず

- 中国の伝説です。昔から言われていたことは、「あの大河黄河の中流に、三門峽と呼ぶ激流の三段滝があり、これを飛び越えたコイは神通力を得た竜になる」という話があり、そんなところから立身出世や、試験に合格することを「登竜門をくぐる」と言われ、鯉は出世魚とされてきました。鯉魚の音は「リュイ」といい、昔は、利益と余裕があるとして珍重されていました。しかし7世紀始めに唐が天下を取ると、唐王の姓、李と同音なので、鯉を捕らえた者は30杖の罪に問われ、食べるなら死刑に処すとの布告が出されました。宋代の高琴は、仙術を会得し、常に羽の生えたコイに乗って飛行したとか……中国には鯉に関する伝説が多いのですが、きっと縁起のいい魚とされていたのでしょう。
- ①日本では「日本書紀」によると、景行天皇が美濃国（岐阜県）の泳宮で、鯉を池に放って楽しんだのが鯉飼育の初記録で、「延喜式」には各国から鯉の乾物が貢物として奉納されたと記されています。
- ②また室町時代、武家がこの故事にあやかって、五節句に男児のために鯉幟を立て、江戸時代の中期からは一般庶民も用い出したとあります。
- ③また江戸時代の有名な小説家、上田秋成の「雨月物語」の中の「夢窓の鯉魚」という小説も有名です。「三井寺に興義という僧がいて、画才に優れており、琵琶湖に小舟を浮かべて魚の泳ぎ廻りを巧妙な絵にしました。ある日、夢の中で大小の鯉と共に廻りそれを絵に描いたのです。その絵の素晴らしさに感心して、欲しがると人が沢山いましたが、興義は、人に花鳥・山水の絵はあげたとしても、鯉の絵だけは惜しがって誰にも手放しませんでした。その後、彼は病気に罹り死にました。しかしその死の世界の中で、海神が「今暫くの間、お前に金の鯉を友として与える、ただ餌に誘われて釣り糸にかかり、身を滅ぼすことのないように」と言いました。しかし彼は籠に引っかかり空腹のうちに我慢出来ず、その餌を飲み込んでしまい捕獲されてしまったのです。そして俎板の上で切られる、と思った瞬間夢が覚めたのでした。興義はその後病氣も治り、後年天寿を全うして世を去ったそうです。

その臨終に際して描いてあった絵数枚を湖に投じて散らしたところ、魚が画布から

ぬけ出て水中を泳ぎ廻った というのです。

以上、中国と日本という東洋での鯉にまつわる伝説をみてきたのですが、いずれにしても、自然を超えた超能力、^{いのち}生命の躍動が感じられます。別に男児のお節句と限らなくても、人生を生きてゆくには^{いのち}生命、(エネルギー) がすべての原動力になっているのです。

キリスト教では鯉ならぬ「神が人間になられて、十字架上で亡くなられた」ということ、それが「復活という生命の源になる」というのと、スケールこそ違え、どこか似ているようにも思ったものでした。

お告げのフランシスコ姉妹会 SR. 熊田 照子



いのちの言葉 5月

互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。
(ヨハネ13・35)

イエスは、ご自分が「友」と呼ばれた弟子たちと共に、食事の席につき、世を去る前の最後の晩餐、最も荘厳な瞬間を迎えておられました。その時イエスは、遺言とも言える最後の望みを、次のように弟子たちに託されました。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」¹。

この言葉は二千年にわたり、イエスに従う者の特徴、イエスの弟子を他と区別するしるしとなりました。

これは初期の頃から見られたことで、エルサレムの最初のキリスト者共同体は、彼らの間にあった一致ゆえに、民衆全体から好意と尊敬を寄せられ²、彼らに加わる人が日々新たに出てくるまでになりました³。

数年後、最初のキリスト教作家の一人であったテルトリアヌスは、キリスト者について周囲の人々が言っていた言葉を、次のように記しています。「彼らはどれほど愛し合っていることか。互いに命を与える覚悟がある。」⁴

これは、まさにイエスの言葉の実現でした。

互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。

相互愛は、「すべてのキリスト者の制服」です。若い人も年配の人も、男性も女性も、

結婚している人もしていない人も、大人も子供も、病気の人も健康な人も、皆が、この制服を身に着けることができます。それはキリスト者が、いつでもどこにいても、自分が信じ、愛する御方を、生活を通して、力強く告げ知らせるためです。⁵

イエスに従う人々が互いに愛し合う時には、一致が生まれます。この一致の中には、イエスの示された愛である神が、ほとんど目に見えるように映し出されます。一致を生きる教会は、三位一体を表すもの⁶と言えるでしょう。

これは、今日福音を告げ知らせるため、かつてないほど必要とされている道です。あまりに多くの言葉に疲れ果てている現代社会は、教師よりも「証し人」を求めています。言葉よりも、「模範」が必要なのです。社会が、福音を実際に生きる人の姿を目にするなら、もっとたやすく福音のメッセージに共感することでしょう。福音には、兄弟的交わりと愛による新たな関係を生み出す力が含まれています。

互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。

では、今月のいのちの言葉をどのように生きればいいのでしょうか。私たちの間で、相互愛を生き生きと保ち、「生きた細胞」を至るところに生み出すことです。

¹ ヨハネ 13・34

² 使徒言行録 2・47,4・32,5・13 参照

³ 使徒言行録 2・47 参照

⁴ Apologeticum 39・7

⁵ キアラ・ルー・ック「la dottrina spirituale(霊的教義)」P139 参照 チッタノーバ社(2006年ローマ)

キアラ・ルービックは語っています。

「イエスが地上にもたらされた火が、一つの町のあちらこちらに灯り、この火が世の冷たさに負けず、町に住む人の善意によって燃え続けるなら、町はやがて神の愛に燃え上がるでしょう。イエスが地上にもたらされた火は、彼ご自身、愛そのものです。この愛は、人々と神を結ぶだけでなく、人々同士も結んでいきます。結ばれた二人三人が、恥や恐れを持たずに、神を愛したいという望みを互いに言い表し、自らの理想であるキリストの内に一致するなら、彼らは、世の中で神聖な力となります。

どの町にも、このような人々が現れるでしょう。家庭の中では父と母、父と子、姑と嫁の間で、また小教区や団体、学校や事務所など、人間社会のどこにでも、このように生きる人々が出てくるでしょう。

この人々がすでに聖人である必要はありません。もし必要なら、イエスは前もってそう言われたことでしょう。大切なのは、イエスの名において一致していること、この一致を決して失わないようにすることです。

彼らが二人三人であるのは、初めのごくわずかな期間のはずです。愛はまわりに広がる性質を持ち、限りなく大きくなっていくからです。

神が地上のあらゆる場所に生み出されるこうした小さな『細胞』は、必ず広がっていくでしょう。神は、炎のように燃えるこれらの魂を、お望みのままに世のあちこちに配置され、世はそこであたたかな神の愛に触れて癒され、再び希望を抱くことでしょう。」⁷

ファビオ・チャルディ神父
ガブリエラ・ファラカラ

(2007.5)

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

私たちは、小学校3-4年生です。私たちのひとりのおばあさんは、老人の施設にいます。そのおばあさんをみんなでお見舞いし、ほかのお年寄りの方々に歌と折り紙のプレゼントをすることにしました。歌を忘れないように歌詞をコピーして、楽器の練習をしてくれた友達もいました。ひとりひとり心を込めて折り紙を折りました。当日は、家から一時間以上かけて来た友達もいました。私たちはいつも「お互いに愛する」ようがんばっています。いつも会うときは小さな愛の行いをお互いにし合っています。みんなで会うのは楽しいです。その日もおばあさんたちを愛するために、心を込めて歌いました。集まって聞いてくれたおばあさんたちやそこで働いている人たちは、私たちの歌をとっても喜んでくれました。一人のおばあさんは「どのコンサートよりも、あなたたちの歌の方がずっといいわ。また来てね。」と涙をうかべて話してくれました。私たちのあいだにある喜びがそのおばあさんたちにも伝えることができうれしかったです。
(G・東京)

お知らせ

東京：マリアポリ 夏の集い

どなたでも参加できます

7月13日(金)～16日(月・祝)

山中湖畔 東照館

*詳細は、「諸所の企画案内」42頁をご覧ください。

フオコラーレ:

連絡先:03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

いのちの言葉のホームページ

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/>

⁶ 「教会憲章」2-4 参照

⁷ 同5 P163-164

信仰の自叙伝

蛭田幼一

私は自由の名において 唯一の真実に従うのである
そう書いたとき 私は神に出会った気がした

神に見出されたような気がした いつも考えていたのだから
人を殺すことが許されている では殺してもいいのか

イスカリオテのユダも 救われるのか と

殺さないことだけが真実だ そして すべてのものが救われる

それが答えだった なぜなら神は

すべての者が救われるよう 祈りなさい

といわれる なぜなら神は 万事において万事となる

歌え 高らかに 詩と賛美と霊の歌

夜が更け 朝が近づいた

娑婆に 雨が降る

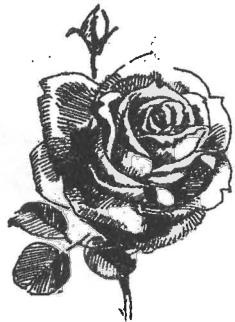


わたしの召命、それは愛

わたしの愛であられるイエスよ
わたしは自分の召命を
ついに見つけました
わたしの召命、それは愛です

そうなのです
わたしは教会の中に
わたしのいるべき場所を
見つけたのです
この場所は、わが神よ
あなたが決めてくださったのです

わたしの母である
教会の心臓部にあって
わたしは愛であり続けましょう
こうしてわたしはすべてとなり
わたしの夢は実現するのです



「小さいテレーズの祈り」(ドン・ボスコ社・石川康輔訳)より

カルメル会の企画案内



内案画全の会小々小々



上野毛靈性センター '07年6月~'08年3月

A 黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想)**

1. 聖書深読(毎回土曜日 夕食~日曜日16時)

7月 7日~ 8日 九里彰師

12月15日~16日 九里彰師

08/ 2月23日~24日 九里彰師

一日聖書深読(毎回土曜日午前10時~午後4時)

10月13日 九里彰師

11月17日 九里彰師

08/ 1月12日 九里彰師

3月15日 九里彰師

2. 奉獻生活者のための黙想会

7月26日(木) 夕食~ 8月 4日(土) 朝 九里彰師

8月21日(火) 夕食~ 30日(木) 朝 福田正範師

12月26日(水) 夕食~08/1月4日(金) 朝 福田正範師

3. 木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日10時~16時)

6月28日 思い悩んではならない 福田正範師

7月 5日 子よ、元気を出しなさい 九里彰師

10月25日 あなたの信仰が、あなたを救った 福田正範師

12月20日 お言葉どおり、この身に成りますように 九里彰師

08/ 1月31日 主よ、助けてください 福田正範師

2月28日 見えない者は、見えるようになる 九里彰師

3月27日 あなた方に平和があるように 福田正範師

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎週金曜日10時~16時)

7月20日 カルメルの元后 聖マリア 福田正範師

9月21日 アヴィラの聖テレジアの説く「従順」 九里彰師

10月 5日 リジューの聖テレジアが生きた「祈り」 九里彰師

11月 2日 自分に死に、あなたに生きんことを 福田正範師

12月 7日 三位一体のエリザベットの示す「天国」 九里彰師

08/ 2月 8日 御復活のラウレンシオ 福田正範師

東京

5. 青年黙想会（男女） 九里彰師 神学生
11月23日（金）15時受付～24日（土）16時
6. 召命黙想会（男女） 九里彰師
11月 9日（金）20時～11日（日）・・・（9日は夕食を済ませてご参加ください）
7. 大祭日のミサに与かるために
【クリスマス】・・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時
12月24日（月）～25日（火）《講話なし、夕食なし》
【聖週間を祈る】チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。
08/ 3月20日（木）～23日（日）《講話なし、各食事つき》
8. 特別黙想会 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）夕食を済ませてご参加ください。
A【私は神を見たい】・・・聖霊に導かれて
6月29日（金）20時 ～ 7月1日（日）15時
B【私は神を見たい】・・・祈り
10月26日（金）20時 ～ 28日（日）15時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・Eメールをお願いします。（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

B カルメル靈性研究クラス (九里 彰神父)

- * 十字架の聖ヨハネ『愛の生ける炎』
 - 6月6日 第一の歌 (28から36まで)
 - 6月27日 第二の歌 (1から20まで)
 - 7月11日 第二の歌 (21から36まで)
- * アヴィラの聖テレジア『創立史』
 - 6月13日 「第9章と第10章」
 - 7月4日 「第11章と第12章」
 - 7月18日 「第13章と第14章」

どちらも水曜日夜7:15~8:45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。随時参加もOKです。上野毛教会信徒会館2階26号室。無料。

C 祈りの集い (九里 彰神父)

- 6月29日 「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上に教会を建てる。」
- 7月20日 「人の子は安息日の主なのである。」

毎月一回金曜夜7:15分より。上野毛聖テレジア修道院(黙想)小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

- 7:15~8:15 み言葉と念祷
- 8:15~8:45 分かち合い(参加自由)

E 東西靈性研究クラス (九里 彰神父)

カルメルの靈性を通して、広く諸宗教の靈性を学ぶクラスです。

- * 原則として毎月第二金曜日(午後7:15~8:45)信徒会館26号室
- * 各回とも、参加者に順番でリポーターを勤めて頂きます。その後、分かち合い。
- * 第3回 6月8日『有時』(道元著『正法眼蔵』岩波文庫第二巻、第二十)
- * 発表者: 福井昭一氏
- * 問い合わせ: 加藤和彦 TEL(03)3418-6816
E-mail tokyo@carmel-monastery.jp
- * 第4回 7月13日 特別講話「キリスト教と仏教 一神と空一」
- * 発表者: 鶴岡賀雄氏(東京大学教授 宗教学研究室)





特別黙想会



《わたしは神をみたい》

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ帰天40周年にあたって—

21世紀に生きるわたしたちが 聖霊に導かれて生きるとは？

講師：伊従信子NDV

6月29日（金曜日）PM20:00 ～ 7月1日（日曜日）PM15:00



はるか前から

わたしは愛の霊にとらえられていた

わたしの聖性は

うちなる聖霊を信じ

その霊に

まったく自分をゆだねること

— 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ、ood —



*当日は、夕食を済ませて参加して下さい。

*持参するもの：

聖書（新約）・・・備えてありますが、使い慣れているご自分の物がよい方は持参して下さい。

筆記用具、洗面道具、パジャマ

*参加費 12,000円

158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Tel 03-5706-7355

Fax 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

C.Y.C.(カルメル・ユース・クラブ)

キリスト者青年の集い

ご聖体の神秘を生きる

キリストは、最後の晩餐の席で、「パンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。『取りなさい。これはわたしの体である』」。また杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らに渡して、言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である」。ご聖体の秘跡とは、どういうことなのでしょうか。祈りながら、一緒に考えましょう。

日 時 : 6月24日(日) 13:30~16:30

対 象 : 18歳以上 35歳までの 青年男女

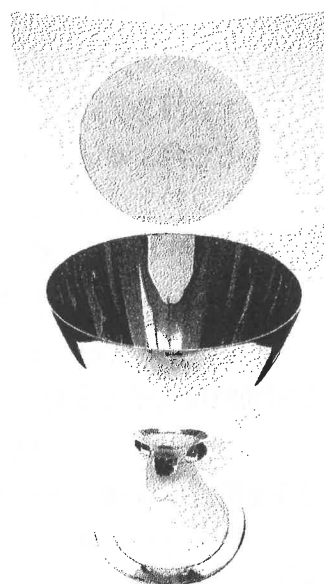
スタッフ : カルメル会士

場 所 : 上野毛教会 信徒会館ホール

東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分

プログラム

13:30~	受付開始
13:45~	始めの祈り
14:00~14:50	講話:まことの食べ物 まことの飲み物
15:00~15:45	分かち合い
15:45~16:00	念祷 終わりの祈り
16:00~16:30	茶話会
16:30	解散



その他

事前の申込みは不要ですので、お気軽にお越し下さい。お問い合わせに関しましては FAX または E-mail に、住所、氏名、年齢をお書きいただき、下記までお送り下さい。

カルメル修道会 カルメル・ユース・クラブ (C.Y.C.) 係 (神学生:古川)

[Fax] 03-3704-1764 [E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp

(〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Tel 03-3704-2171)

‘07年6月～’08年3月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

＊＊宇治聖テレジア修道院(黙想)＊＊

1. 聖書深読

- ① 一泊二日 (午後5時～午後4時)
- | | |
|-----------------------|--------|
| 7月21日 (土)～22日 (日) | 新井延和神父 |
| 9月15日 (土)～16日 (日) | 新井延和神父 |
| 11月17日 (土)～18日 (日) | 渡辺幹夫神父 |
| 08/ 3月 8日 (土)～ 9日 (日) | 新井延和神父 |
- ② ミニ深読 (午後14時～午後16時)
- | | |
|-----------|--------|
| 2月13日 (火) | 深読スタッフ |
|-----------|--------|

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

- | | | |
|-----------|------------|---------|
| 6月20日 | み心 | ベルナルド神父 |
| 7月18日 | カルメルの聖母 | カルメロ神父 |
| 9月19日 | エディットシュタイン | 渡辺幹夫神父 |
| 10月17日 | アピラの聖テレジア | アロイジオ神父 |
| 11月14日 | 日常の聖性 | 中川博道神父 |
| 12月12日 | 十字架の聖ヨハネ | 新井延和神父 |
| 08/ 1月16日 | 新しくなる | 渡辺幹夫神父 |
| 2月20日 | 聖書の祈り | 新井延和神父 |
| 3月12日 | 主の受難 | カルメロ神父 |

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

- 08/ 2月9日 (土)～2月10日 (日) カルメロ神父

4. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

- 12月1日 (土)～12月2日 (日) 渡辺幹夫神父

5. 聖テレズの黙想 (午後5時から午後4時まで)

- 9月30日 (日)～10月1日 (月) 伊従信子 NDV

6. 日曜黙想会 (午前10時～午後4時)

- | | |
|--------|--------|
| 6月10日 | 渡辺幹夫神父 |
| 10月 7日 | 渡辺幹夫神父 |

7. 奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

8月 2日（木）～ 8月11日（土）	中川博道神父
8月18日（土）～ 8月27日（月）	渡辺幹夫神父
10月20日（土）～10月29日（月）	渡辺幹夫神父
12月27日（木）～ 1月 5日（土）	カルメロ神父

8. 青年黙想会（午前10時～午後4時）

11月4日（日） カルメル宣教修道女会 中川博道神父

.....

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457



「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の日静修～（2007）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「秘跡を生きる」としました。このテーマの中で、秘跡の教義的な側面をベースにし、神との出会いの中で七つの秘跡をどのように受止め、生きることが出来るかを黙想の中で深めていく事ができるようにと願っています。

了 第1回	1月16日(火)	神の現存の体験	松田浩一神父 (上野毛修道院)
了 第2回	2月12日(月) *祝	洗礼・堅信の秘跡	中川博道神父 (宇治修道院)
了 第3回	3月21日(水) *祝	赦しの秘跡	新井延和神父 (宇治修道院)
了 第4回	4月17日(火)	聖体の秘跡	カルメロ神父 (宇治修道院)
了 第5回	5月15日(火)	結婚の秘跡	九里彰神父 (上野毛修道院)
第6回	6月19日(火)	叙階の秘跡	渡辺幹夫神父 (宇治修道院)
第7回	7月16日(月) *祝	カルメル山の聖母	新井延和神父 (宇治修道院)
第8回	9月11日(火)	幼いイエスの聖テレジアと秘跡	アダミニ神父 (日比野修道院)
第9回	10月16日(火)	アヴィラの聖テレジアと秘跡	Sr.ベアトリス (宇治修道院)
第10回	11月23日(金) *祝	病者の塗油	ベルナルド神父 (宇治修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
(駐車場は利用できません。)

* 費用 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約20名

* プログラム

10:00～	祈り
10:40～	講話【1】
12:00～12:45	昼食
12:50～	赦しの秘跡または短い面接
13:30～	講話【2】
14:45～	ミサ
15:30～	茶話会
16:00～	終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へVガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 3 京 都（毎回土曜日）

6月 9日	渡辺幹夫神父	10月 6日	P.オヘル神父
7月 14日	P. オヘル神父	11月 17日	奥村豊神父
9月 8日	新井延和神父	12月 8日	新井延和神父

*日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解読で学びながら福音を深く心に刻む
聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階

費 用：各回 2,500 円（昼食代を含む）

時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート
申し込み・問い合わせ（お申し込みは、各回3日前までに）

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910

4 名古屋聖書深読会

10月 6日（土）

日比野カトリック教会 中川博道神父

- * 毎回事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
- * 定員 21 名 申し込みは FAX かハガキでお願いします。
- * コースは深読法を集中的に行う一日コースと全行程を沈黙のうちに黙想しながら 1泊2日のコースがあります。
- * 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方ならどなたでもご参加ください。

申し込みは、下記の住所へ、ハガキか FAX で、氏名、住所、TEL を記入の上開催の3日前までに必着のこと。キリスト者は所属教会名もご記入ください。

〒465-0058 名古屋市名東区貴船 3-2115 小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。

講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 有光信子さんのグループ

- ① 通信・参加者は「素読表」（B5 あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

- ② ミニ深読（午後2時～4時）毎月第4木曜日（8月はお休み）宇治カルメル会教会

①②とも：〒663-8033 西宮市高木東町 31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」2007年特集号

「今こそ信徒を切実に招かれるキリストのみ声」

—現代における信徒の靈性—

- 聖書が語る靈性 一人はなぜ「靈性」を必要とするのか …雨宮 慧
世に生きる希望の証し …田畑邦治
旅する教会の途上にて 呼びかけられた覚醒、期される覚生 …大瀬高司
世に遣わされたキリストの姿 —教会公文書に見る信徒の靈性 …九里 彰
世を愛された神と共に世に生きる靈性 …中川博道

雑誌「カルメル」No. 325 (2007年夏号)「今日の靈性」

- * 聖靈の光のもとに —教父たちの教えと生き方(6) …高橋正行
「あなたがたに平和があるように」
—ヨハネ福音書 20章 19～29節 …九里 彰
- * 祈り(14) …チプリアノ・ボンタッキョ
- * 十字架の聖ヨハネ講話 (7) …フェデリコ・ルイス
愛で生きる(5) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット(2) —信徒の生き方を探る …伊従信子
カルメルの響り(9) ～ひとり海を渡ったおとめ～
OCD 日本創立に向けた具体的な動き II …大瀬高司
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(17)
—あなたの信仰を信じなさい …伊従信子
- * オウム真理教元信者の手記を読んで …谷口正子
愛の断章(4) …奥村一郎

※ 雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号＋特集号、送料込み）として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会

（お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL(03)5706-8356）

待望の再販

『自叙伝』（サンパウロ社）、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』（ドン・ボスコ社）

エディットシュタインの祈り

(一九四〇年六月)

永遠の平和は

あなたの御心の内に住む。

あなたはその平和を

すべての人の心に注いで、

溢れ流れるように

切に願われる、

だがこの世には

迎える入り口がない。

あなたの秘めやかな叩きに

人々は耳を傾けない、

それゆえあなたはハンマーで

叩かなければならない。

長い夜が去って初めて

朝は来る。

吹き荒ぶ非常の風の中に

あなたの御国は誕生する。

オリーブの山で

血の滴る不安の汗が

切なる嘆願をこめて父と戦われ、
勝利された。

そこにこそ世界事件は決定した。

その大地にひれ伏して

礼拝せよ

もはや問うことなく

誰が？ 私たちは？ 何処で？ 何時？

と。

裁かないように

私たちが裁かれなかったために

事物の外的な輝きは

私たちを皆あざむく。

私たちはこの世にあって

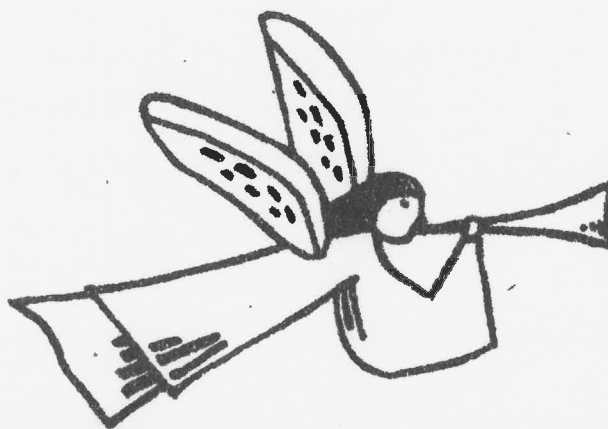
仮象の姿を見る。

ただ創造主のみが

真の存在を知っておられる。



諸所の企画案内



CWC企画

心のいほり

リーゼンフーバー神父・キリスト教講座

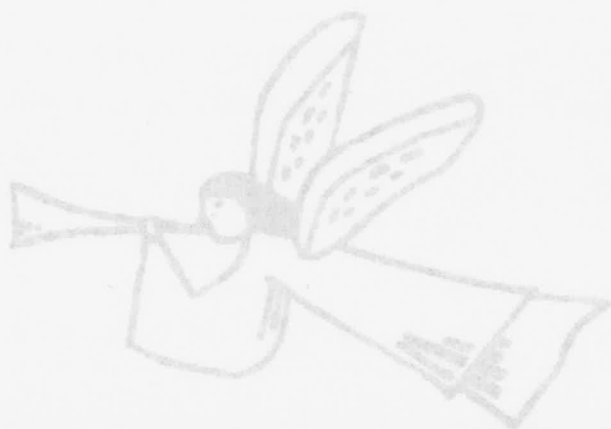
真命山靈性交流センター

ノートルダム教育修道女会

ノートルダム・ド・ヴィ

フォコラーレ

内案画金の両齋



画金のW

のEJの

空機機イスいき・父軒一ハ一てにサ一し

一タにサ流交卦雷山命真

会文直新育機△でハイ一し

トセ・オ・△でハイ一し

し一セにホて

諸所の企画案内

【CWC 講話会】

今年は、「聖書深読入門」を行ないます。

講師：九里 彰神父（カルメル会）

日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）

場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時

対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

連絡先：神藤（CWCスタッフ）TEL（03）3642-5629

2007年

6月12日（火）

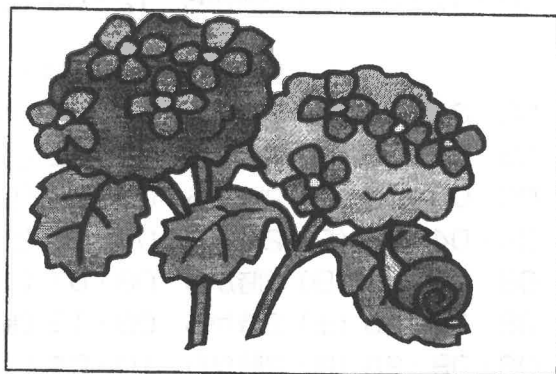
7月10日（火）

10月9日（火）

11月13日（火）

12月11日（火）

8月9月はお休みいたします。



方法

1. まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。
2. その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。
3. 「素読」で受け取ったものを、一節ごと皆で分かち合う「合読」。
他者の発言に対し、一切批評はしない。自分のことのみ発言する。
(無理に発言する必要なし。何も発言しなくてもOK。)
4. 「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解説」。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせて下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072・802・5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★ 2007年度 ★

M1	07・05・17 (木)	2時から	05・23 (水)	2時まで	盛岡・白百合・シャルトル
K3	07・06・03 (日)	2時から	06・09 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
P2	07・06・17 (日)	2時から	06・23 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
N1	07・06・26 (火)	2時から	07・02 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
Y2	07・07・22 (日)	2時から	07・28 (土)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
P3	07・08・10 (金)	2時から	08・16 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K4	07・09・09 (日)	2時から	09・15 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
B2	07・10・17 (水)	2時から	10・23 (火)	2時まで	札幌・厚別・ベネディクト
N2	07・11・02 (金)	2時から	11・08 (木)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
K5	07・11・11 (日)	2時から	11・17 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
P4	07・12・03 (月)	2時から	12・09 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会

★ 2008年度(決まっている会場) ★

M1	08・01・11 (金)	2時から	01・17 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K1	08・01・27 (日)	2時から	02・02 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M2	08・03・10 (月)	2時から	03・16 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K2	08・04・13 (日)	2時から	04・19 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
K3	08・06・01 (日)	2時から	06・07 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M3	08・09・13 (土)	2時から	09・19 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K4	08・09・28 (日)	2時から	10・04 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M4	08・11・30 (日)	2時から	12・06 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K5	08・12・09 (火)	2時から	12・15 (月)	2時まで	東京・小金井・聖霊会

一日内観・ミニ内観のご案内

一日内観

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて

参加費は1万円

了2007年4月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで

・2008年4月26日(土)午後2時から
27日(日)午後4時まで

・2008年6月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで

ミニ内観

★沖縄・安里修道院・毎月第一水曜日
10時から3時まで・シスターかな
電話 098・866・8293

★東京・神奈川県内観経験者のミニ内観の集い
聖母訪問会・三浦修道院にて

了4月29日(日)、6月10日(日)

問い合わせ 小倉

FAX 045・824・1462

リーゼンフーバー講座・集い案内

2007～2008年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。
- 坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内 Kultourハイム1階左の部屋。祝日を除く。
3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心 ● 4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時了
6月22日(金)20時30分～24日(日)13時 秋川神真窟。1泊2400円程度。
8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分
10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時
2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分 上石神井。5600円程度。
● ~~5月12日(土)13時～13日(日)16時了~~
8月1日(水)17時30分～7日(火)13時 宝塚市
- ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
- 黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し8月14日は休み。8月28日は上智大学内 Kultourハイム聖堂。
12月25日(火)はクリスマスの黙想(予定)。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
●通う霊操 8月18日(土)～8月26日(日) 18時～21時 上智大学内 Kultourハイム聖堂
- 祈りの集い ●下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月14日、~~5月26日~~、6月30日、7月14日、8月18日、9月8日、10月13日、11月17日、12月8日、
2008年1月12日、2月2日、3月15日
●ロザリオの折り 同日16時10分～16時50分 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
- 黙想会 ~~5月19日(土)10時～20日(日)15時~~、9月22日(土)10時～24日(月)14時、12月1日(土)10時～2日(日)15時、
2008年3月8日(土)10時～9日(日)15時、上石神井。1泊5600円程度。
- アガベ会 下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室
~~4月21日(土)~~、6月16日(土)、10月21日(日)、2008年1月20日(日)
- クリスマス会 12月15日(土) 17時～ 聖イグナチオ教会信徒会館ヨセフホール(予定)。要申し込み。
クリスマスミサ 12月23日(日) 14時～ 上智大学内 Kultourハイム聖堂
- 問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html
<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座 2007～2008年

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各回のテーマ

- 6/1 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/8 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
- 6/15 救い主の役割—人類の待望
- 6/22 神の国—イエスの告げるメッセージ
- 6/29 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
- 7/6 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/13 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/20 最後の晩餐—自分を与えるイエス
- 7/27 イエスの受難—その史実と意図
- 7/28 感謝のミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
- 8/3, 10 ○休み
- 8/17 イエスの死—その救済的意味
- 8/18-26 ●通う霊操（18-21時）
- 8/24 聖書のイエス像—ヨハネの見たイエス
- 8/31 イエスの復活—今に生きるイエス
- 9/7 聖霊—神の愛に導かれる
- 9/14 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
- 9/21 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
- 9/22-24 ●黙想会
- 9/28 教会の成立と意味—イエスを中心に集う



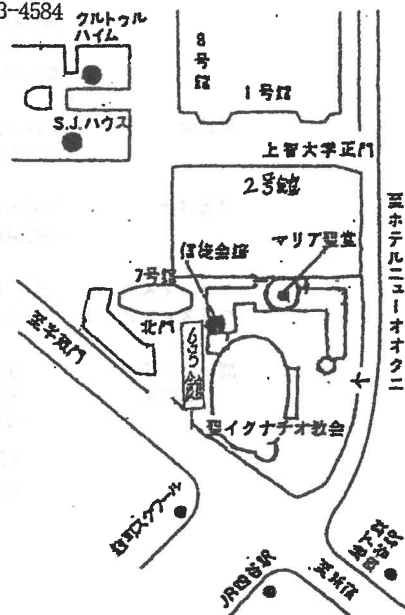
リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座 2007～2008年

日時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

毎回のテーマ

- 6/5 創造と救い—イエスのまねび
- 6/19 [倫理的行為] 善い行為の規範—人間の本性と神の意志
- 7/3 人間的行為—自由と良心
- 7/17 性格の形成—徳と感情
- 7/28 感謝のミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
- 7/31 人間の弱さ—誘惑と罪
- 8/7 魂の癒し—恩恵・回心・ゆるし
- 8/18-26 [クルトゥルハイム2階] ●通う霊操（18-21時）21日は振替
- 9/4 [根本的態度] 人生を生きる基盤—信頼・信仰・希望
- 9/18 課題の中心—愛による完徳
- 9/22-24 ●黙想会
- 10/2 真理と善の実現—判断・勇気・節制
- 10/16 共同体と社会の建設—共通善・正義・愛
- 10/30 個人の道—聖霊の導きとカリスマ



坐禅会



月曜日 : 17時20分～20時10分

木曜日 : 18時～20時30分

(祝日を除く)

場 所 : 上智大学内クルトゥルハイム 1階正面左の部屋

3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

接心 2007年度

関東

4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時了

6月22日(金)20時30分～24日(日)13時

8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分

10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時

2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分上石神井、5600円

秋川神冥窟

1泊2400円程度

関西

5月12日(土)13時～13日(日)16時 宝塚市 ② 了

8月1日(水)17時30分～7日(火)13時 宝塚市 ①

連絡先 ① シスター田中 電話 0797-84-7863

② 岸本 正 電話 078-583-3067

指導と問い合わせ先:

クラス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)5111(伝言)、FAX 03-3238-5056



黙想へのお誘い

メディテーション

「会社帰りの黙想」

—あわただしい毎日に平安のオアシスを—

月2回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれます。

リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまな仕方が紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書のことばをもとにし、自己を探り静かに考え、祈ることができます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。

信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから解放され、夕べのひとつきに心を深めたい方、どなたも歓迎です。随時参加、遅刻可、参加は無料です。初めて黙想なさる方も、お気軽にいらしてください。

日時：毎月第2・第4火曜日 18:45～20:00

但し8月14日休み、8月28日上智大学内クルトゥルハイム聖堂
12月25日(火)クリスマス・メディテーション(予定)

場所：聖イグナチオ教会マリア聖堂(中聖堂)

東京都千代田区麹町6-5 Tel.03-3263-4584

(JR、地下鉄四ッ谷駅から徒歩すぐ)

指導司祭プロフィール

クラウス・リーゼンフーバー(Klaus Riesenhuber)

1938年生まれ、1967年来日

イエズス会司祭、哲学・神学博士

元放送大学客員教授

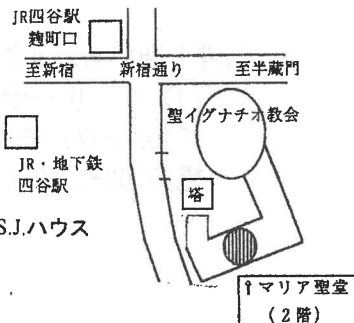
現在、上智大学文学部哲学科教授

連絡先：〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学S.J.ハウス

Tel.03(3238)5124(直通)/5111(伝言)

http://www.jesuits.or.jp/~i_riesenhube/index.html

<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>



真命山

2007 年度行事のご案内

祈りの集い (午前 10 時～午後 3 時)

年間テーマ「聖ダミアノの十字架のもとで祈る」

- 了 1 月 11 日 (木) 聖ダミアノの十字架のもとで祈った
聖フランチスコ
- 了 2 月 8 日 (木) 十字架に釘づけられたキリストの体
- 了 3 月 8 日 (木) キリストの受難と死
- 了 4 月 12 日 (木) 死に勝たれたキリストの姿
- 了 5 月 10 日 (木) イエス様の十字架のもとに
立っておられるマリア様
- 6 月 14 日 (木) 十字架につけられたキリストの御顔
- 7 月 12 日 (木) " (続き)
- 9 月 13 日 (木) 三位一体の栄光を表す十字架
- 10 月 11 日 (木) 十字架につけられたキリストを
囲んでいる人々
- 11 月 8 日 (木) 十字架を担ってキリストに従う
- 12 月 13 日 (木) 十字架と馬小屋

指導者：真命山スタッフ

フランコ・ソットコルノラ神父 (院長)

シスター マリア・デ・ジョルジ

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。(要予約)

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

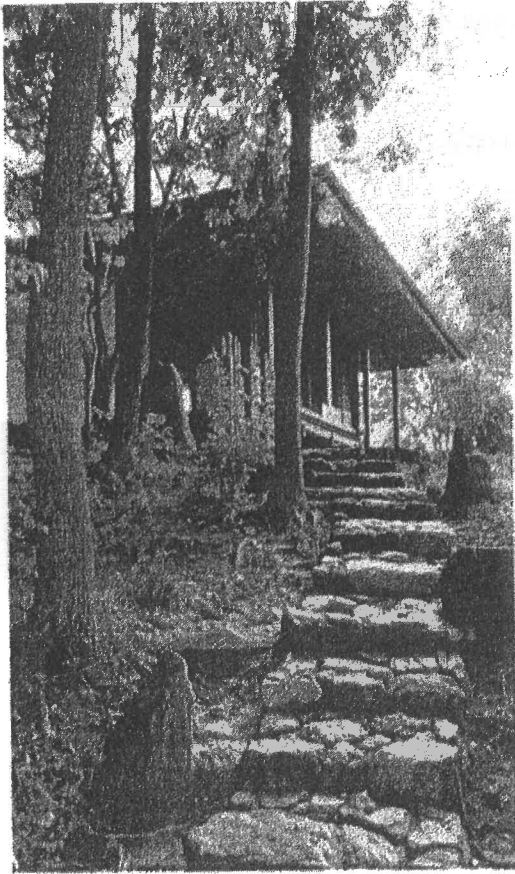
☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

真命山

真命山の靈性

諸宗教対話・靈性交流センター



自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

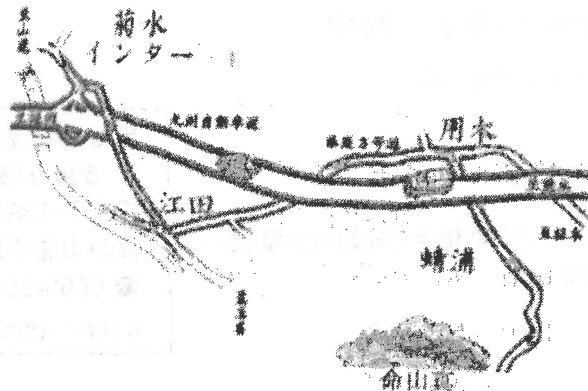
祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり



ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel : 077-579-7580

Fax : 077-579-3804

Eメール : nd-inori@mbr.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2006年12月27日(水)～2007年1月4日(木)了
- ② 2007年2月20日(火)～2月28日(水)了
- ③ 7月23日(月)～7月31日(火)
- ④ 8月18日(土)～8月26日(日)
- ⑤ 9月1日(土)～9月9日(日)

B. 週末3日間の個人指導による祈りの体験(神との親しさの中で日常を生きるために)

初日は、17時のミサで始まり、最終日は13時30分のミサで終わります。

- ⑥ 2007年1月19日(金)～21日(日)了
- ⑦ 2月2日(金)～4日(日)了
- ⑧ 4月13日(金)～15日(日)了
- ⑨ 5月11日(金)～13日(日)了

C. 3日間の週末個人黙想(週末に個人黙想をなさりたい方のため)

他の黙想会が行われている場合があります。

- ⑩ 2007年2月23日(金)～2月25日(日)了
- ⑪ 3月2日(金)～4日(日)了
- ⑫ 3月23日(金)～25日(日)了
- ⑬ 5月18日(金)～20日(日)了
- ⑭ 6月29日(金)～7月1日(日)
- ⑮ 9月7日(金)～9日(日)
- ⑯ 10月5日(金)～7日(日)
- ⑰ 10月12日(金)～14日(日)
- ⑱ 10月19日(金)～21日(日)

⑱ 11月 2日(金)～ 4日(日)

D. 霊性プログラム：ワークショップ (自己発見から神へ)

⑳ 2007年3月22日(木)～ 29日(木)了

E. 上記の日程以外でも、個人で黙想をなさりたい方は、問い合わせてください。

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 担当者： トニー・ブロードニャック師 (メノール宣教会) と シスター が
霊的同伴者としてお手伝いいたします。

◎ 受付： 受付(チェックイン)は、いずれの場合も、初日の午後3時からです。

◎ 申込先： 郵送、または、Fax でお願ひします。

郵送： 〒520-0106 大津市唐崎 1丁目3-1 ノートルダム修道院

Fax： 077-579-3804

1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて下さい。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。但し、それ以前に満室になった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎ 問い合わせ： 電話： 077-579-7580 または、

Eメール： nd-inori@mbr.nifty.com 「件名は黙想」でお願ひします。



いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2007年 6月23日(土)

— 聖靈 —

(幼きイエスのマリー・エウジェンヌ又師帰天40周年にあたって)

* 次回の予定 10月20日(土) *

講話 伊従信子・片山はるひ

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

フォコラーレの夏のつどい

マリアポリ

今年も「マリアポリ」の集いが、開かれることになりました。自然豊かな富士山麓・山中湖畔に集い、福音の相互愛を生きながら、一つの大きな家族のように過ごしつつ、心身ともにリフレッシュするひとときにしたいと願っています。どうぞご参加ください。

マリアポリとは、「マリア様の町」という意味です。フォコラーレの発祥の地・北イタリアで、1949年に夏の休暇を利用し、人々が集い、共に相互愛を生きる日々を過ごしたのが、始まりでした。今では世界各地でマリアポリが開かれ、多くの人々が参加しています。日本でも30年以上にわたり毎年行われており、参加された方々は、この体験を自分の置かれた環境の中で生かしています。

日 時：2007年7月13日（金）～ 7月16日（月・祝）

場 所：東照館（とうしょうかん） 山梨県南都留郡山中湖村平野 210

問合せ：フォコラーレ TEL: 03(3707)4018 tokyofocfem@ybb.ne.jp

マリアポリのお知らせ

日時：2007年7月13日(金) 19時 受付 20時 プログラム開始
7月16日(月・祝) 昼食後 解散

場所：東照館(とうしょうかん)

山梨県南都留郡山中湖村平野 210 Tel: 0555 (65) 8750

①新宿から高速バスで：

新宿—山中湖 I.C.—山中湖—平野

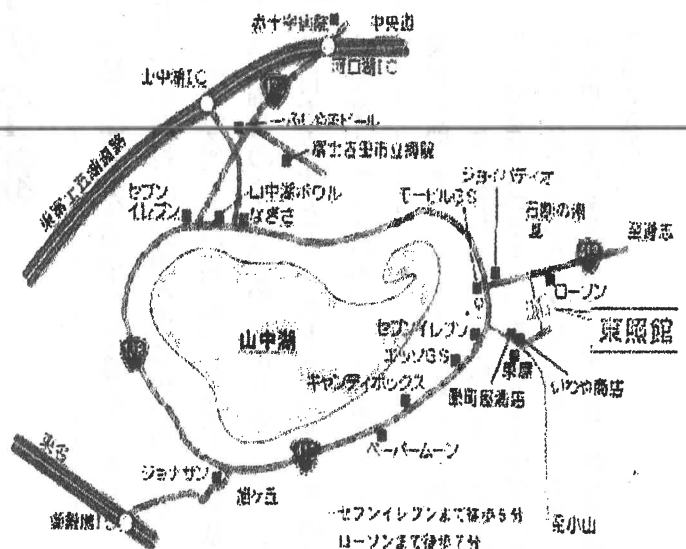
(約 140 分)

- ・京王予約センター：03(5376)2222
- ・富士急予約センター：0555(72)5111

②新宿から電車で：

- ・新宿駅 (JR 中央線 120 分) →
- 大月駅 (富士急行 50 分) →
- 富士吉田駅 (バス 35 分) → 平野

*バス停「平野」より徒歩 5 分



参加費：

大人	24,000円	学生	19,000円
小・中学生	16,000円	幼児(3才以上)	9,500円

- * 7月3日(火)まで内金2000円を添え、フォコラーレセンターまでお申し込み下さい。
- * 7月13日(金)の夕食は、各自お済ませ下さい。
- * 駐車場もご利用いただけます。
- * プログラムの中で、希望者にはスポーツ(テニス・卓球など)のひとつも予定されています。ご希望の方は歩きやすい靴や道具などをご準備下さい。

連絡・申込先：

男子フォコラーレセンター

Tel: 03(5370)6424 Fax: 03(5370)3055 Email: czmtokyo@focolare.org

女子フォコラーレセンター

Tel: 03(3707)4018 Fax: 03(3707)4019 Email: tokyofocfem@ybb.ne.jp



深い信仰と豊かな霊性、
そして透徹した知性が織り成す
奥村神学の全貌。

祈りと思索の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となつてなお続く禅との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の霊性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の霊性」は、日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。——著者による「刊行にあたって」より

奥村一郎 Okumura Ichiro ●カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。

奥村一郎選集

Okumura Ichiro

全9巻

2007年3月刊行開始

オリエンツ宗教研究所

定価各2,100円

(本体2,000円)

四六判 上製 平均240頁

奥村一郎選集 全9巻の構成

第1巻 慈悲と隣人愛

(解説) 西村恵信

第2巻 多文化に生きる宗教

(解説) ヤン・ヴァン・ルフラフト

第3巻 日本の神学を求めて

(解説) 小野寺功

第4巻 日本語とキリスト教

(解説) 阿部仲麻呂

第5巻 現代人と宗教

(解説) 鶴岡賀雄

第6巻 永遠のいのち

(解説) 八木誠一

第7巻 カルメルの霊性

(解説) 高園泰子

第8巻 神に向かう〈祈り〉

(解説) 高橋重幸

第9巻 奉獻の道

(解説) 宮本久雄



聖フランシスコ・ザビエルによる日本開教から四百五十年、途中数々の困難がありながらも、まかれた福音の種は今日まで生き続けています。この地の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索し続けた一人の日本人——奥村一郎。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集めたものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話におけるダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。あわせて、その柔軟な視点は二十一世紀の今、宗教対立や文化葛藤を乗り越え、寛容を求めるすべての人々への道標となることでしょう。その時と場所とで与えられた役割を誠実に果たし続けた著者の足跡をまとめた本選集が、日本の教会と社会で長く受け継がれる財産となることを願ってやみません。

オリエンズ宗教研究所

Okumura Ichiro

全9巻の主な内容

- | | | |
|---------------|--|------------|
| 第1巻 慈悲と隣人愛 | カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行 | 3月刊 |
| 第2巻 多文化に生きる宗教 | 大いなる賭——宗教対話／遠藤周作さんを偲ぶ／アジアにおけるカトリックの現代的課題 | |
| 第3巻 日本の神学を求めて | 日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟 | |
| 第4巻 日本語とキリスト教 | 日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳 | |
| 第5巻 現代人と宗教 | 現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／全人教育と真人教育 | |
| 第6巻 永遠のいのち | 嬰兒復帰／人間の栄光と悲惨／死を見つめる／十字架の秘義／人間と世界と神 | |
| 第7巻 カルメルの霊性 | アピラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性 | 4月刊 |
| 第8巻 神に向かう〈祈り〉 | 考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈ることの意味 | |
| 第9巻 奉獻の道 | 清らかな矛盾／修道と世俗／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性 | |

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 Tel:03-3322-7601/Fax:03-3325-5322/jimu@oriens.or.jp http://www.oriens.or.jp

購入申込書	オリエンズ宗教研究所刊 奥村一郎選集 (全9巻) 各巻定価2,100円 (本体2,000円)	ご住所 〒	お電話	取扱書店
	第 巻 書名	冊	お名前	
	第 巻 書名	冊	4 5	
	を購入します。			

新刊紹介

◆ 「神はわたしのうちに、わたしは神のうちに」

(三位一体のエリザベット帰天百周年記念出版)

伊従信子著・聖母文庫・¥525

総頁196



◆ 「祈りの道」・「いのちの道」

写真と文 伊従信子・サンパウロ・¥840・総頁各48

日々の生活に潤いをもたらす、

珠玉の言葉と写真を集めた2冊



● 「三位一体のエリザベット」

— 神は私のうちに 私は神のうちに —

菊地多嘉子著・ドンボスコ・¥525

Sr.菊地多嘉子が、沈黙の生活の中からわきあがるエリザベットの霊性の美しさを記す。

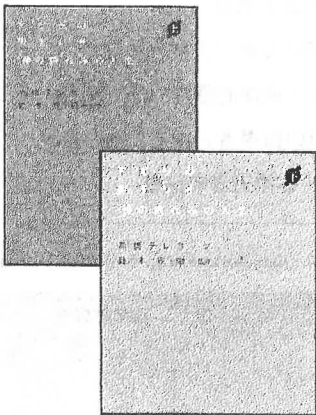
● 「神の憐れみの人生」(上・下)

監修 鈴木宣明

訳 高橋テレサ

聖母の騎士社・上下各巻 ¥840

カルメル会・アビラの聖テレサに関する新刊本。



投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどを B5 で 2 枚前後に簡単にまとめて送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

投稿規程

- * 締め切り：原則的に毎月10日まで
- * 原稿サイズ：**B5** 左右の余白：**15mm**
- * 原稿はできる限り**ワープロかパソコン**でおねがいします。
- * E-mail での投稿は、添付ファイルで、seminary@carmel-monastery.jp宛てにお願いします。
- * 「心の泉」のコーナーについては、小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。
- * 寄稿連絡は、九里 彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院

Tel (03) 3704-2171 Fax (03) 3704-1764

- * 「霊性センターニュース」の《カルメル会の企画案内》の部分は HP でも御覧になれます。 <http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>
- * 「霊性センターニュース」をご希望の方は、下記まで、郵送ご希望の月数文×220円を現金で送ってください。
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会上野毛修道院
「霊性センターニュース事務局」

献金へのお願い

「霊性センターニュース」は現在、ご希望の方へ無料で配付しております。コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

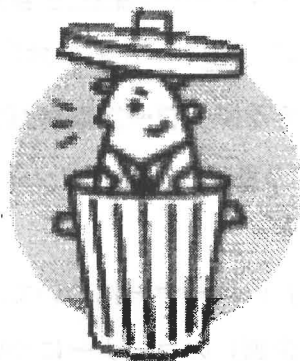
* 献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル霊性センターニュース

通信欄に「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

* なお上野毛教会聖堂の祭壇左側の献金口や、信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金口に、直接、献金して下さっても結構です。献金袋は用意されております。



編集後記

新聞やテレビなどで、毎日毎日、次から次へと陰惨な凶悪事件が報道され、いい加減、辟易しているのは、私一人だけではないことと思う。

そんな中で、今年の11月から毎朝、新宿駅東口広場の清掃を一人で始めた荒川祐二さんの活動は、一服の清涼剤のようである。

「一緒に掃除してくれる人募集」というプラカードを持って、まったく一人で始めた彼を、最初、多くの方は冷ややかな目で眺めていたようである。唾を吐きかけたり、わざわざゴミを置いていく人もいたという。最初に彼を助けてくれたのは、ホームレスの人だったということであるが、これは何を意味しているのだろうか。小さく無力な人こそ、小さく無力な人を理解できるということだろうか。いずれにせよ、徐々に多くの人から温かい言葉をかけられるようになり、今では何人かの若者が手伝ってくれるようになったと言う。

「このおかげで大きく変わりましたよ。新宿前のゴミも減りましたし、ぼくの人生も」。「簡単なことから人生が変えられるんですよ」という彼の言葉は、私たちの日常生活、信仰生活にも、当てはまるように思われる。毎日、わずかな時間でも真剣に神に祈ること、自分の感情を抑制し、言葉や振る舞いをコントロールすること、出会うだれに対しても心から接することなどなど。

「あなたの部屋は、祈りの部屋と呼ばれるべきである」。ところが、あなたはそれをゴミ箱のようにしてしまった。

キリストにこう言われぬように、私もまず修室のゴミをかたづけすることにしよう。
(P.九里)

